

2022年度業務実績報告書

提出日 2023年 1月 19日

1. 職名・氏名 准教授・篠山 治恵

2. 学位 学位 博士（農学）、専門分野 植物育種学、授与機関 筑波大学、授与年 2004年7月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境・文化概論（通年4単位）1年生	
②内容・ねらい 食べることと農業は本来密接につながっており（食農）、それを取り巻く環境・文化はこの食農と切り離せない存在である。それが本来の「農」であり、「農」とは総合知であることを実務経験者から学び、自分の中で「農」のとらえ方を学習する。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業内容に応じてレポートを提出させ、習熟度を高めた。 ・学期末ごとにレポートを提出させ、そのレポートに基づいた面談をすることで、学生の理解程度の把握と理解の促進を行った。 ・学年末には「農」に関する意見論文を提出させることで、学生自身の「農」のとらえ方を明確にさせた。 ・外部講師を招いての授業では、予備知識としての資料を配布するとともに、初出の用語については、適宜説明補助を行った。	【ゲストスピーカー 17人】 【フィールドワーク 0件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境実習Ⅰ（通年2単位）1年生	
②内容・ねらい 福井県内全域を学びの場として、実際に「農」の現場を訪れると共に、あわらキャンパス内圃場を使って、農作物の栽培、農・海産物の収穫、加工、消費、および共同体活動を広く体験する。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業毎にレポートを提出させ、学期末に面談にて理解程度の把握と理解の促進を行った。 ・学生と外部講師の間の意思疎通が図れるように、適宜用語解説、説明補助を行った。 ・撮影可能な場所では動画撮影を行い、実体験に近い授業にできるように心掛けた。	【ゲストスピーカー 14人】 【フィールドワーク 20件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境演習Ⅰ（通年4単位）1年生	
②内容・ねらい 食農環境実習Ⅰで体験したことについて学生各自で日誌にまとめ、その都度、教員に提出する。また体験したことをより深く知るための情報収集の方法について指導する。さらに学生同士で対話して情報を共有し学び合う。それらの情報をもとにグループディスカッションを実施する	

ための準備を行う。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

- ・演習毎にレポートを提出させ、記憶の定着と理解の促進を図った。
- ・学期末には1年の振り返りをさせ、さらに面談による指導を行うことで、理解程度の把握と理解の促進を行った。

【ゲストスピーカー 14人】

【フィールドワーク 20件】

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

- ・総合農学（通年8単位）1年次 オムニバス形式

②内容・ねらい

キャンパス内の圃場で、年間を通じて実際に農作物を栽培し、収穫、加工、消費までを体験する中で、栽培技術、農作業機械操作技術、加工・調理技術、簿記技術を身に付けるとともに、農業と気象、土壌環境、他の生物との関係性を観察、理解し、実験計画法、土壌分析法、雑草・病虫害被害調査方法などを学習する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

- ・授業毎に作業日誌を提出させ、実習内容の進捗を把握することで、学生の学習補助を行った。
- ・学生自身に考えさせる時間をもたせることを心掛けた。
- ・学年末には各自に作成させた MyFarm 報告書に基づいた発表をさせることで、作業計画や作業手順の効率性と有効性について検証させた。

【ゲストスピーカー 2人】

【フィールドワーク 28件】

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

- ・食農環境実習Ⅱ（通年2単位）2年次 オムニバス形式

②内容・ねらい

食農環境実習Ⅰでの体験を通して思い描いた学生自身の将来像にもとづき、実現に向けての学習・グループディスカッションを行う。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

- ・適宜レポートを提出させ、学期末に面談にて理解程度の把握と理解の促進を行った。
- ・実習では、教員や特任講師とのディスカッションの時間を設けることで理解を進めるとともに、自己実現のためのグループディスカッションを実施した。

【ゲストスピーカー 16人】

【フィールドワーク 21件】

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

- ・食農環境演習Ⅱ（通年4単位）2年次 オムニバス形式

②内容・ねらい

食農環境実習Ⅱで実践したことについて学生各自で日誌にまとめ、その都度、教員に提出する。また体験したことをより深く知るための情報収集の方法について指導する。さらに学生同士で対話して情報を共有し学び合う。それらの情報をもとにグループディスカッションを実施するための準備を行う。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
・演習毎にレポートを提出させるとともに、学期末ごとに面談による指導を行い、理解程度の把握と理解の促進を行った。さらに分属に向けての個別相談を実施した。
【ゲストスピーカー 16人】
【フィールドワーク 21件】

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
・花卉園芸学（前期2単位）2、3年次

②内容・ねらい
花卉園芸に関する基礎的な知識について解説するとともに、主要花卉品目の栽培に関する実例を学習することで、基礎的な知識の応用を体得する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
・授業毎にレポートを提出させ、採点して返却することで理解程度の把握と理解の促進を行った。
・学生と外部講師の間の意思疎通が図れるように、適宜用語解説、説明補助を行った。
・実物を用いて、視覚的な授業にできるように心掛けた。
・外部講師として農業試験場、福井市園芸センターの研究員の講義を取り入れ、現場に近い実践的な授業を行ってもらった。
【ゲストスピーカー 2人】
【フィールドワーク 1件】

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
・花卉園芸学実験（前期1単位）3年次

②内容・ねらい
花卉園芸に関する基礎的な実験を行い、知識について解説するとともに、主要花卉品目の栽培に関する実例を学習することで、基礎的な知識の応用を体得する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
・授業毎に班もしくは個人でレポートを提出させ、採点して返却することで理解程度の把握と理解の促進を行った。
・常に実演をすることで、視覚的な理解の促進を図った。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
・食品加工実習（前期1単位）3年次 オムニバス形式

②内容・ねらい
農産物加工の基礎、食品衛生管理、6次産業化に関する素養を身につけるとともに、6次産業に関連する県内施設・企業の見学、食品加工実習を行い、加工食品について食品素材の生産、特性、製造方法、殺菌方法、貯蔵方法、包装技術、製品規格及び表示制度について総合的に理解する。さらに生産様式の異なる農産食品、水産食品、畜産食品、微生物利用食品の中から、代表的な加工食品の製造原理・製造技術を理解する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
・授業毎にレポートを提出させ、採点して返却することで理解程度の把握と理解の促進を行った。
・共同作業を行わせることで、協働時の自分の役割について自覚するようにさせた。
・グループディスカッションを行い、食品加工に関する知識の体得を促進させた。
【ゲストスピーカー 9人】
【フィールドワーク 6件】

<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先端農業技術活用論（通年 2 単位）2 年次 オムニバス形式
<p>②内容・ねらい</p> <p>先端的な農業技術（IoT、AI、GPS、ドローン、機械学習、衛星利用、農業資材、育種技術、施設園芸、植物工場等）について実践的に活用している講師をオムニバス形式で招き、それらの現在の活用方法を学ぶとともに、</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業毎にレポートを提出させ、採点して返却することで理解程度の把握と理解の促進を行った。 ・グループディスカッションを行い、未来型農業の実現のために必要な技術とその活用方法を議論させた。 <p style="text-align: right;">【ゲストスピーカー 10 人】 【フィールドワーク 0 件】</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的生物多様性管理論（通年 2 単位）2 年次 オムニバス形式
<p>②内容・ねらい</p> <p>農業の 3 大リスク（害虫、病気、雑草）の防除方法を学び、それらが生物多様性に与える影響を総合的に学び、これからの農業を取り巻く産業構造の在り方について議論する。さらに、農を取り巻く生態系のつながり、各分野の管理法に関する知識を得るとともに、生態系のつながりを活かした管理法を考え、議論する。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業毎にレポートを提出させ、採点して返却することで理解程度の把握と理解の促進を行った。 ・グループディスカッションにて、農と生態系のつながりを重視した管理法を議論させることで、3 大リスクの効率的な管理方法について自分の考えをまとめさせた。 <p style="text-align: right;">【ゲストスピーカー 10 人】 【フィールドワーク 0 件】</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業インターンシップ I（通年 1 単位）1 年次 オムニバス形式
<p>②内容・ねらい</p> <p>夏季休暇中（8 月～9 月）に農繁期となる農作物生産現場にて実践的な研修を行う。複数のコースを設け、学生の希望する分野をより深く体験する。農作物生産現場にて実際に作業を行うことにより、農業経営を行うために必要な知識・資格・スキルを明確にする。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修報告をさせるとともに、あわら収穫祭でポスター発表をさせ、研修の振り返りと将来を見据えた技術や知識の獲得を促進させた。 ・ポスター作成等に当たっては適宜助言を与え、分かりやすい資料の作り方や発表方法を学ばせた。 <p style="text-align: right;">【ゲストスピーカー 14 人】 【フィールドワーク 13 件】</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業インターンシップ II（通年 1 単位）2 年次 オムニバス形式

②内容・ねらい

夏季休暇中（8月～9月）にキャリア形成に向けた実践的な研修を行う。複数のコースを設け、学生の希望する分野をより深く体験する。公設試験場や研究・教育機関における農林業に関連する取り組みを学び、現場ニーズに対する具体的な解決策を提供する方法を理解する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

- ・研修報告をさせるとともに、あわら収穫祭でポスター発表をさせ、研修の振り返りと現場のニーズに対する解決策を提案させた。
- ・ポスター作成等に当たっては適宜助言を与え、分かりやすい資料の作り方や発表方法を学ばせた

【ゲストスピーカー 14人】

【フィールドワーク 13件】

(2)その他の教育活動

内容

- ・花卉類の日持ち性試験に関すること
木元研究室と共同で、修論研究のための材料提供・試験方法・データ解析について指導した。
- ・SSHメンター指導：高志高等学校（2022年7月1日、7月6日、10月14日、12月12日）
内部進学高校生および高校からの入学生に対して、課題解決学習におけるメンター指導を実施した。
- ・探究学習に係るアドバイザー：勝山高等学校（2022年7月14日）
3年生の探究成果報告会にアドバイザーとして参加し、助言と指導と行った。
- ・探究中間発表に係るアドバイザー：大野高等学校（2022年10月7日）
2年生の探究成果中間報告会にアドバイザーとして参加し、助言と指導と行った。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【0本】
②学術論文（査読あり）	
1. Touch-Induced Transcriptional Changes in Flower Buds of a Non-Model Horticultural Plant <i>Dianthus hybrid</i> . Ryo Nishijima, Alvin Sanjaya, <u>Harue Shinoyama</u> , Yusuke Kazama 2022. <i>Horticulturae</i> 8: 918, https://doi.org/10.3390/horticulturae8100918 .	【1本】
③その他論文（査読なし）	【0本】
④学会発表等	
1. ナデシコ属植物における接触刺激に対する遺伝子発現変動解析. 西嶋 遼、アルビン サンジャヤ、篠山 治恵、風間 裕介（福井県大・生物資源）育種学会第141回講演会（2022年3月20～21日）ポスター発表	【1件】
⑤その他の公表実績	
1. 越前水仙の品質保つ薬剤商品化、福井新聞、2022年2月10日	
2. 「日本水仙」を良質に長持ちさせる薬剤用法を開発、ニュースイッチ、2022年2月13日	
3. スイセンの保存期間を延ばす 県立大学大学院の研究グループが薬剤を開発【福井】、YAHOO ニュース、2022年2月9日	
4. 越前水仙の鮮度長持ち、日韓県民福井、2022年2月10日	
5. 越前水仙の品質保持 ジベレリンで3週間、日韓工業新聞、2022年7月21日	
6. 越前水仙の品質保持剤開発、日本農業新聞、2022年2月10日	
7. スイセンの保存期間を延ばす 県立大学大学院の研究グループが薬剤を開発 福井テレビ、2022年2月9日 水曜 午後6:30	
	【7本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
戦略的課題研究促進支援事業（R2～R3）	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
園芸学会北陸支部 評議員	

5. 地域・社会貢献活動

①-1 委員就任（国）

- ・ナショナルバイオリソースプロジェクト・広義キク属
運営委員として令和 4 年度の実績を評価し、次年度以降の活動計画について助言を行った
(2022 年 4 月～現在に至る)

①-2 委員就任（県）

- ・消費・安全対策交付金（食の消費・消費者の信頼確保対策推進交付金）（福井県）
第 3 者アドバイザーとして活動実績の評価を実施した（2020 年 4 月～現在に至る）

⑥公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開講

- ・公開講座「品種改良っておもしろい！～果樹、花～、花の品種改良について」（2022 年 8 月 23 日）
- ・第 1 学年学問発見講座：若狭高等学校（2022 年 7 月 7 日）
- ・総合探究成果報告会：勝山高等学校（2022 年 7 月 14 日）
- ・探究学習に係る模擬講義：勝山高等学校（2022 年 10 月 25 日）

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

- 保健管理センター運営会議（2021 年 4 月～現在に至る）

(3)学内行事への参加

- オープンキャンパス（2022 年 8 月 7 日、8 日、21 日）
- 入試説明会：敦賀高等学校（2022 年 7 月 4 日）
- 若狭高等学校（2022 年 7 月 11 日）
- 坂井高等学校（2022 年 7 月 12 日）

(4)その他、自発的活動など